

せめぎ合いの本番はこれから

県議会が私たちの請願を否決したことについて(声明)

2010年12月22日

12月22日、滋賀県議会は、私たちが提出した「県立高校の統合・再編計画を一旦中止し、県民合意を踏まえることを求める請願」を賛成少数で否決しました。請願に賛成した議員は、角川誠氏、森茂樹氏、西川仁氏、節木三千代氏、沢田享子氏の5人です。

この問題をめぐって、滋賀県議会は根本的な問題を露呈しました。

討論を避けた多くの会派 反対討論なしで否決

1つは、本来、議論をつくしてより良い結論を得るべき県議会の多くの会派・議員が議論そのものを避けたことです。16日の文教警察常任委員会でも、22日の本会議でも、請願紹介議員の質問や意見はありましたが、他は誰ひとり討論には立ちませんでした。賛成も反対もしないのです。これだけ県民的な関心事になっている県立高校の統廃合問題の請願が、討論なしに否決されたのです。これでは、県民に申し開きができないのではないかと考えます。

県民の声を顧みることなく否決

もう1つは、県下各地で急速に高まってきた「地域の高校をなくすな」「統廃合計画を一旦中止して、県民の声を聞くべし」という県民の声を、顧みることなく踏みにじったことです。湖北をはじめ多くの「高校を守る会」がつくれ、PTAや

同窓会や地域住民の運動が広がってきました。短期間の間に、議会の請願署名は26,778人分、教育長への要請署名は25,154人分、合わせて51,932人分が集まりました。学校の存廃という滋賀の今後を左右する重大問題について、討論もしない、県民の意見も聞かない議会とは一体何なのか、「無言を貫いた」各派と議員の姿勢が厳しく問われます。

それでも県民の声が県政を動かす

しかし、こうした中にも、県民の声が県政を動かしている事実が見えてきます。統合・再編計画に賛成する議員も、「県民の前では賛成するわけにはいかない」のです。また、この計画に反対する議員も党議拘束に縛られて自分の意見が述べられないのです。だから、討論を避けたのです。さらに、議会閉会日の直前に、自民と民主の会派が「県立高等学校の再編について慎重な検討を求める決議」を提案し採択しました。そこには「県の進め方は、人々の間に大きな不安と動揺を与え、不満の声が多く聞かれる。県民の意見を真摯に受け止め、県民合意の形成に向けた慎重な検討を行うよう、強く求める」とあります。これは、再編計画を中止させる立場ではありませんが、県民の声の高まりを色濃く反映したものです。

すでに県は12月3日の本会議で、今年度に策定するとしていた「統合再編計画」を「次年度に策定する」と、日程変更を表明しています。

本番はこれから

いま、県民の声が、そこまで県政に影響を及ぼすようになりました。「統廃合計画の中止を求める」などの意見書の採択は、12月22日現在、19の市町議会のうち17議会、実に89%になりました。せめぎ合いの本番はこれからです。道理のない統廃合計画を中止に追い込むまで、県民の皆さんと共に奮闘するものです。

12月22日

県立高校の統廃合を考える会



ストップ高校統廃合 速報第44号

2010/12/27 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)

